

平成23年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	新潟県		市町村類型	II-1		指定団体等の指定状況		区分		平成23年度(千円)	平成22年度(千円)	区分		平成23年度(千円・%)	平成22年度(千円・%)	
								歳入総額	32,113,934	35,843,992	実質収支比率	6.0	5.5			
市町村名	村上市		地方交付税種地	1-3		財政健全化等	×	歳出総額	30,707,020	34,526,847	経常収支比率	88.8	85.5			
						財源超過	×	歳入歳出差引	1,406,914	1,317,145	(※1)	(93.2)	(93.7)			
						首都	×	翌年度に繰越すべき財源	105,814	89,350	標準財政規模	21,831,860	22,140,636			
						近畿	×	実質収支	1,301,100	1,227,795	財政力指数	0.40	0.41			
						中部	×	単年度収支	73,305	269,182	公債費負担比率	18.2	17.9			
人口	22年国調(人)	66,427	産業構造(※5)			過疎	○	積立金	2,569	742,862	健全化判断比率					
	17年国調(人)	70,705				山振	○	繰上償還金	-	61,074	実質赤字比率	-	-			
	増減率(%)	-6.1				区分	22年国調	17年国調	低開発	○	積立金取崩し額	-	-	連結実質赤字比率	-	-
住民基本台帳人口	24.03.31(人)	66,613	第1次	3,036	3,700	指数表選定	○	実質単年度収支	75,874	1,073,118	実質公債費比率	17.5	17.5			
	23.03.31(人)	67,442		第2次	9,724	11,127	基準財政収入額	6,284,210	6,314,376	将来負担比率	167.0	163.6				
	増減率(%)	-1.2			31.3	32.6	基準財政需要額	16,153,641	16,387,606	資金不足比率(※4)						
面積(km ²)	1174.24		第3次	18,325	19,229	標準税収収入額等	7,999,608	8,042,059								
人口密度(人/km ²)	57			59.0	56.4	経常経費充当一般財源等	19,236,866	19,138,908								
世帯数(世帯)	22,058					歳入一般財源等	24,548,840	25,626,053								
職員の状況																
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	35,145,240	37,421,306						
	市区町村長	1	7,860	一般職員	735	2,205,735	3,001	うち公的資金	30,069,902	31,445,600						
	副市区町村長	1	6,030	うち消防職員	135	410,265	3,039	債務負担行為額(支出予定額)	5,222,805	5,123,822						
	教育長	1	5,350	うち技能労務職員	84	241,920	2,880	収益事業収入	-	-						
	議会議長	1	3,590	教育公務員	2	8,892	4,446	土地開発基金現在高	846,563	846,194						
	議会副議長	1	2,950	臨時職員	-	-	-	積立金	3,238,923	3,236,354						
	議会議員	28	2,730	合計	737	2,214,627	3,005	現在高	314,413	314,307						
				ラスパイレズ指数(※6)	100.5		(92.9)		財政調整基金	3,105,780	2,498,615					
								減債基金								
								その他特定目的基金								
一般会計等の一覧																
項番	会計名	事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧		(※3)				
(1)	一般会計	(6)	国民健康保険特別会計	(11)	上水道事業会計	(12)	下水道事業特別会計	(15)	下越障害福祉事務組合 一般会計	(25)	イヨボヤの里開発公社					
(2)	土地取得特別会計	(7)	国民健康保険診療所特別会計			(13)	集落排水事業特別会計	(16)	下越清掃センター組合 一般会計	(26)	山北町産業振興公社					
(3)	情報通信事業特別会計	(8)	後期高齢者医療特別会計			(14)	簡易水道事業特別会計	(17)	新潟県後期高齢者医療広域連合 一般会計							
(4)	みどりの里特別会計	(9)	介護保険特別会計					(18)	新潟県後期高齢者医療広域連合 後期高齢者医療特別会計							
(5)	蒲萄スキー場特別会計	(10)	介護サービス事業特別会計					(19)	新潟県市町村総合事務組合 一般会計							
								(20)	新潟県市町村総合事務組合 職員退職手当支給事業特別会計							
								(21)	新潟県市町村総合事務組合 消防団員等公務災害補償事業特別会計							
								(22)	新潟県市町村総合事務組合 消防資しゅつ金支給事業特別会計							
								(23)	新潟県市町村総合事務組合 非常勤職員公務災害補償等事業特別会計							
								(24)	新潟県市町村総合事務組合 交通災害共済事業特別会計							

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6: ラスパイレズ指数の()内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	6,824,736	21.3	6,821,957	33.1	普通税	6,760,474	99.1	67,361
地方譲与税	483,597	1.5	483,597	2.3	法定普通税	6,760,474	99.1	67,361
利子割交付金	19,739	0.1	19,739	0.1	市町村民税	2,498,600	36.6	67,361
配当割交付金	8,541	0.0	8,541	0.0	個人均等割	87,422	1.3	-
株式等譲渡所得割交付金	2,092	0.0	2,092	0.0	所得割	1,848,116	27.1	-
地方消費税交付金	623,851	1.9	623,851	3.0	法人均等割	150,855	2.2	-
ゴルフ場利用税交付金	2,672	0.0	2,672	0.0	法人税割	412,207	6.0	67,361
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	3,668,741	53.8	-
自動車取得税交付金	104,420	0.3	104,420	0.5	うち純固定資産税	3,220,068	47.2	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	161,454	2.4	-
地方特例交付金	96,865	0.3	96,865	0.5	市町村たばこ税	431,679	6.3	-
児童手当及び子ども手当特例交付金	37,920	0.1	37,920	0.2	鉱産税	-	-	-
減収補填特例交付金	58,945	0.2	58,945	0.3	特別土地保有税	-	-	-
地方交付税	13,568,695	42.3	12,404,062	60.1	法定外普通税	-	-	-
普通交付税	12,404,062	38.6	12,404,062	60.1	目的税	64,262	0.9	-
特別交付税	1,146,203	3.6	-	-	法定目的税	64,262	0.9	-
震災復興特別交付税	18,430	0.1	-	-	入湯税	61,483	0.9	-
(一般財源計)	21,735,208	67.7	20,567,796	99.6	事業所税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	12,433	0.0	12,433	0.1	都市計画税	2,779	0.0	-
分担金・負担金	283,755	0.9	-	-	水利地益税等	-	-	-
使用料	629,984	2.0	24,935	0.1	法定外目的税	-	-	-
手数料	221,283	0.7	-	-	旧法による税	-	-	-
国庫支出金	2,770,313	8.6	-	-	合計	6,824,736	100.0	67,361
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	1,831,610	5.7	-	-				
財産収入	101,591	0.3	32,043	0.2				
寄附金	3,775	0.0	-	-				
繰入金	6	0.0	-	-				
繰越金	1,317,145	4.1	-	-				
諸収入	1,473,531	4.6	3,478	0.0				
地方債	1,733,300	5.4	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	1,033,100	3.2	-	-				
歳入合計	32,113,934	100.0	20,640,685	100.0				

区分	収入済額	構成比	平成23年度	平成22年度
徴収率(現・計)	合計		97.8	92.4
(%)	市町村民税		98.3	93.6
	純固定資産税		96.9	90.0

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	4,951,960	実質収支	132,814
下水道	2,407,362	再差引収支	69,983
簡易水道	205,627	加入世帯数(世帯)	10,268
介護サービス	17,748	被保険者数(人)	18,244
上水道	-	被保険者	86
国民健康保険	396,212	1人当り	105
その他	1,925,011	保険税(料)収入額	281
		国庫支出金	
		保険給付費	

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	245,145	0.8	-	245,145	
総務費	2,838,031	9.2	328,400	2,333,477	
民生費	7,876,153	25.6	252,913	4,612,908	
衛生費	2,648,989	8.6	214,180	2,279,705	
労働費	250,192	0.8	-	27,200	
農林水産業費	1,722,578	5.6	429,527	1,420,342	
商工費	1,669,839	5.4	46,308	432,697	
土木費	4,155,988	13.5	897,508	3,460,193	
消防費	1,555,581	5.1	127,442	1,273,420	
教育費	3,078,565	10.0	627,295	2,557,384	
災害復旧費	109,702	0.4	-	42,701	
公債費	4,556,257	14.8	-	4,456,754	
諸支出費	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	30,707,020	100.0	2,923,573	23,141,926	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	14,426,267	47.0	11,222,961	11,159,760	51.5
人件費	6,172,747	20.1	5,466,546	5,412,944	25.0
うち職員給	4,020,430	13.1	3,358,948	-	-
扶助費	3,697,263	12.0	1,299,661	1,290,062	6.0
公債費	4,556,257	14.8	4,456,754	4,456,754	20.6
元利償還金	4,555,703	14.8	4,456,200	4,456,200	20.6
うち元金	4,009,366	13.1	3,909,863	3,909,863	18.0
うち利子	546,337	1.8	546,337	546,337	2.5
一時借入金利子	554	0.0	554	554	0.0
その他の経費	13,247,478	43.1	10,470,237	8,077,106	37.3
物件費	4,230,388	13.8	3,221,516	2,926,225	13.5
維持補修費	1,133,689	3.7	927,263	631,091	2.9
補助費等	1,259,065	4.1	1,081,569	535,813	2.5
うち一部事務組合負担金	139,985	0.5	139,985	139,985	0.6
繰出金	4,951,960	16.1	4,632,778	3,983,977	18.4
積立金	609,840	2.0	606,411	-	-
投資・出資金・貸付金	1,062,536	3.5	700	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	3,033,275	9.9	1,448,728	-	-
うち人件費	69,548	0.2	69,548	-	-
普通建設事業費	2,923,573	9.5	1,406,027	-	-
うち補助	1,050,401	3.4	132,507	-	-
うち単独	1,702,656	5.5	1,119,878	-	-
災害復旧事業費	109,702	0.4	42,701	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	30,707,020	100.0	23,141,926	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

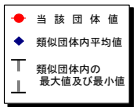
平成23年度 新潟県村上市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	31,816	30,417	1,399	1,293	0	33,467	
2 土地取得特別会計	0	0	0	0	0	0	
3 情報通信事業特別会計	276	269	6	6	181	1,678	
4 みどりの里特別会計	275	275	0	0	75	0	
5 蒲葎スキー場特別会計	36	34	2	2	25	0	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	66,613人 (H24.3.31現在)	実収	赤字比率	- %
面積	1,174.24 km ²	実公債費	赤字比率	- %
歳入	32,113,934千円	実負担	比率	17.5 %
歳出	30,707,020千円	将来負担	比率	167.0 %
実収支	1,307,100千円	市町村	類型	H19 H20 H21 H22 H23
標準財政規模	21,831,860千円	(年度)	(年度)	(年度)
地方債現在高	35,145,240千円	(年度)	(年度)	(年度)

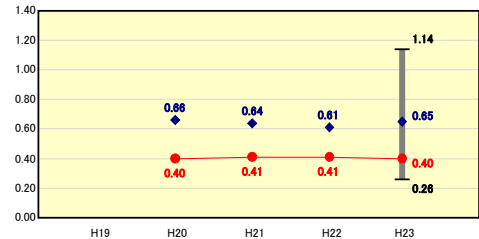


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 [0.40]

類似団体内順位 168/195 全国平均 0.51 新潟県平均 0.52

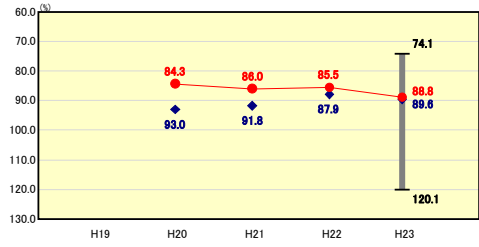


財政力指数の分析欄
 人口の減少や全国平均を上回る高齢化率(平成23年度31.5%)に加えて、大型事業数が少ないこと等により、財政基盤が弱く、類似団体平均よりかなり下回っている。
 平成21年度に策定した「第1次村上市総合計画」では「協働と自律 ムダのない行政」を将来像としていることから、引き続き人件費の抑制や施設改革等を行い財政基盤の強化を図る。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [88.8%]

類似団体内順位 79/195 全国平均 90.3 新潟県平均 88.7

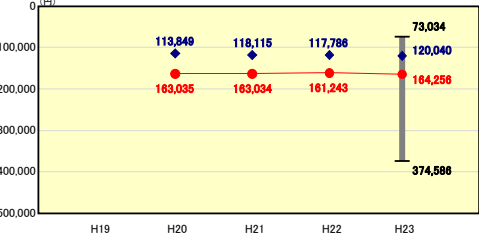


経常収支比率の分析欄
 類似団体平均より下回っているが前年比3.3ポイント増となっている。要因としては、扶助費が伸びていること、施設の老朽化等に伴う維持補修費の増加があげられる。
 人件費や公債費は減少傾向にあるが、扶助費は今後も増加することが見込まれるので、行財政改革を推進し、事業、施設の統廃合を図り義務的経費を含む経常経費の削減に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [164,256円]

類似団体内順位 179/195 全国平均 119,477 新潟県平均 148,363

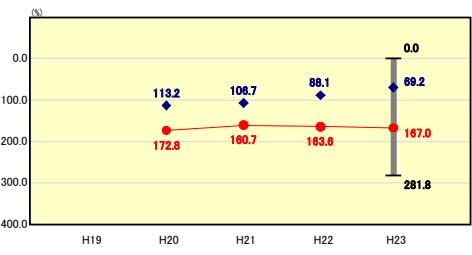


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額が類似団体平均を大きく上回っている要因としては、ごみ処理場事業及び消防業務を直営で行っていることがあげられる。
 今後、民間でも実施可能な事業については委託化を検討し経費の削減を図っていくとともに、「職員定員適正化計画」に基づき職員数の適正化を進め人件費の抑制に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [167.0%]

類似団体内順位 183/195 全国平均 69.2 新潟県平均 113.0

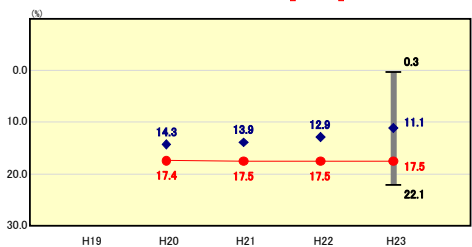


将来負担比率の分析欄
 平成20年度と比較すると基金積立に伴う充当可能財源の増額で比率は改善しているが、類似団体と比較すると平均を上回っている。要因としては、下水道等の公営企業債等繰入見込額の財政負担が考えられる。これは、新潟県一広い面積の村上市では下水道の建設費用が高くなり、必然的に資本費が高くなるのが原因と考えられる。後年度に負担を繰延べすることができる資本費準化債を活用するとともに、下水道接続率の向上を図り自主財源確保に努め、基準外繰入金を減少させなければならない。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [17.5%]

類似団体内順位 181/195 全国平均 8.9 新潟県平均 13.6

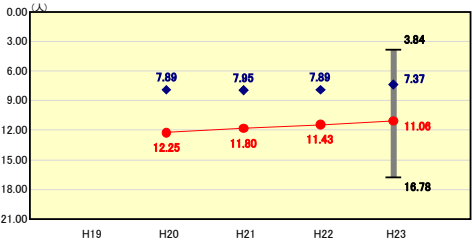


実質公債費比率の分析欄
 平成23年度実質公債費比率は、17.5%と類似団体195団体中181位で高い比率となっている。普通会計の公債費は地方債発行の抑制により今後は減速していく見込みであるが、公営企業への地方債元利償還分繰入金は今後増加する見込みとなっている。普通会計部門では、公債費を抑制するため、今後も償還額以下での地方債発行に努め、公営企業会計では後年度に負担を繰延べすることができる資本費準化債を活用するとともに下水道接続率の向上を図り自主財源確保に努め基準外繰入金を減少させなければならない。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [11.06人]

類似団体内順位 183/195 全国平均 7.17 新潟県平均 8.69

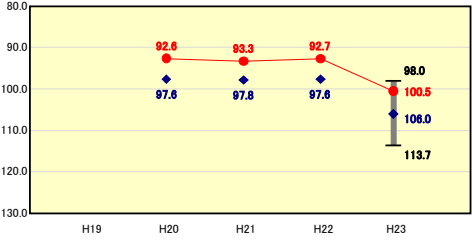


人口千人当たり職員数の分析欄
 人口千人当たりの職員数については、類似団体平均を大幅に上回っているが、要因としては平成20年度に合併し、職員数982人の職員体制となったことがあげられる。
 現在は「職員定員適正化計画」を策定し、平成28年度末には733人の職員体制を目指している。しかしながら、面積が広大であるため、支所や施設管理職員を削減することには限界があること、ごみ処理場事業及び消防業務を直営で行っているため、一概に類似団体比較は難しい事情がある。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレズ指数 [100.5]

類似団体内順位 7/195 全国市平均 106.9 全国町村村平均 103.3



ラスパイレズ指数の分析欄
 合併前の全市町村において類似団体平均を下回っていたことから、合併後指数についても低水準となっている。
 平成23年度については、国家公務員の給与削減が行われたことにより指数は上昇したものの一時的なものである。

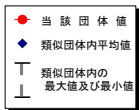
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

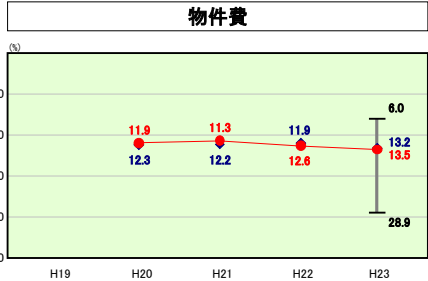
新潟県村上市

経常収支比率の分析

人口	66,613 人 (H24.3.31現在)	実収支	黒字	比率	- %
面積	1,174.24 km ²	実収支	赤字	比率	- %
入総額	32,113,934 千円	実収支	公債費	比率	17.5 %
出総額	30,707,020 千円	実収支	将来負担	比率	167.0 %
実収支	1,301,100 千円	市町村	類型	H19	Ⅱ-1
標準財政規模	21,831,860 千円	(年度)	(年度)	H20	Ⅱ-1
地方債現在高	35,145,240 千円			H21	Ⅱ-1
				H22	Ⅱ-1
				H23	Ⅱ-1

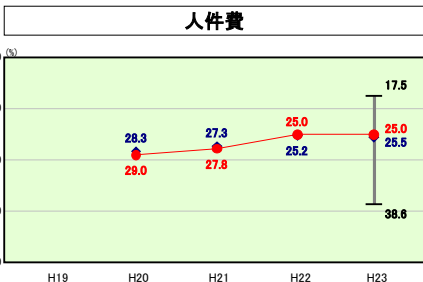


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



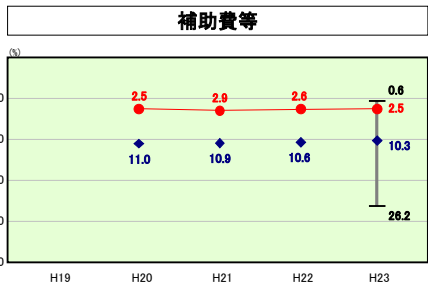
類似団体内順位 112/195 全国平均 13.1 新潟県平均 12.9

物件費の分析欄
物件費にかかる経常収支比率は、類似段階平均を0.3ポイント上回っている。
要因としては、指定管理者制度の導入により人件費から物件費に移行していることがあげられる。今後も施設の指定管理の導入は進むが、経常経費を削減し物件費の抑制を図る。



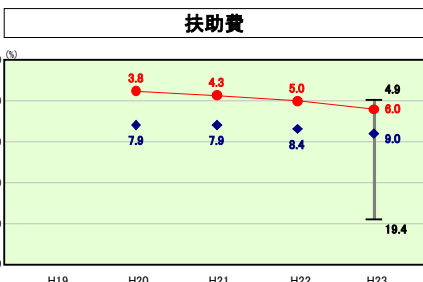
類似団体内順位 88/195 全国平均 25.4 新潟県平均 23.3

人件費の分析欄
人件費にかかる経常収支比率は、類似団体平均よりも0.5ポイント下回っている。
今後も「職員定員適正化計画」に基づき、職員数の適正化を進めて人件費の抑制を図る。



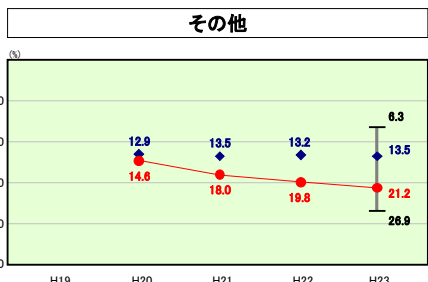
類似団体内順位 4/195 全国平均 10.1 新潟県平均 8.6

補助費等の分析欄
補助費等にかかる経常収支比率は、類似団体平均よりも7.8ポイント下回っている。
要因としては、合併によりごみ処理・消防・教育業務等を処理していた一部事務組合を解散し、村上市の直営事業としたことがあげられる。



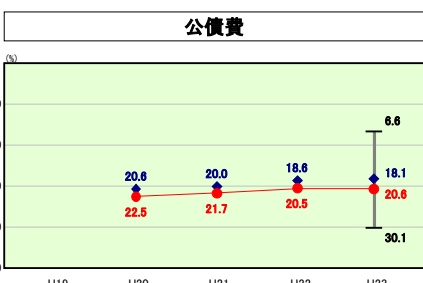
類似団体内順位 14/195 全国平均 10.5 新潟県平均 8.1

扶助費の分析欄
扶助費にかかる経常収支比率は、類似団体平均よりも3.0ポイント下回っている。
しかし、平成22年度と比べて1.0ポイント上昇しており、要因としては保育園運営に係る経費の増加と医療費助成の拡充等により上昇したものと考えられる。



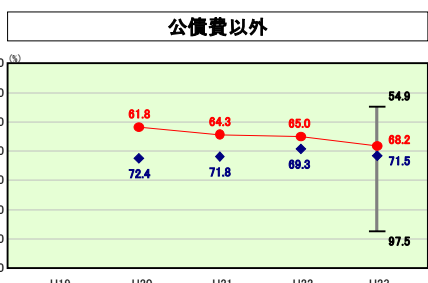
類似団体内順位 191/195 全国平均 12.2 新潟県平均 16.4

その他の分析欄
その他にかかる経常収支比率は類似団体平均よりも7.7ポイント上回っている。
要因としては、下水道事業への繰出金が年々増加しているためであり、後年度に負担を繰り延べすることが出来る資本費平準化債を活用するとともに、下水道接続率の向上を図り自主財源の確保に努め、基準外繰出金の減少を図る。



類似団体内順位 148/195 全国平均 19.0 新潟県平均 19.4

公債費の分析欄
公債費にかかる経常収支比率は、類似団体平均より2.5ポイント上回っており、前年度と比べて0.1ポイント上昇している。
合併以後、償還額以下での地方債発行に努めており、年々地方債残高を減少させている。今後も地方債発行について精査・抑制をし地方債残高の減少を図る。



類似団体内順位 47/195 全国平均 71.3 新潟県平均 69.3

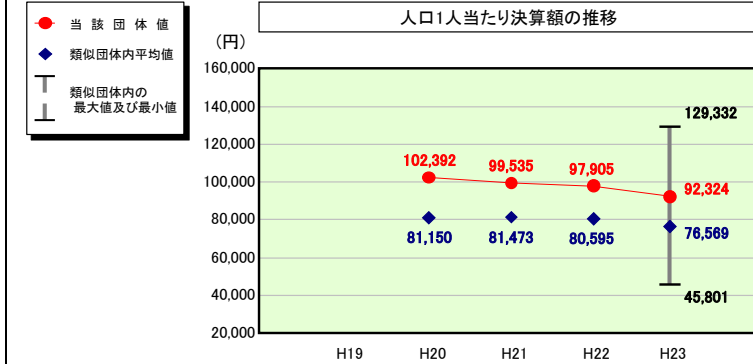
公債費以外の分析欄
公債費以外の経常収支比率は、類似団体平均よりも3.3ポイント下回っている。
これは、他の類似団体と比べて、経常経費の一般財源分のうち公債費が占める割合が高いことを示しているため、今後より一層の地方債発行について精査・抑制を行う必要がある。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

新潟県村上市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



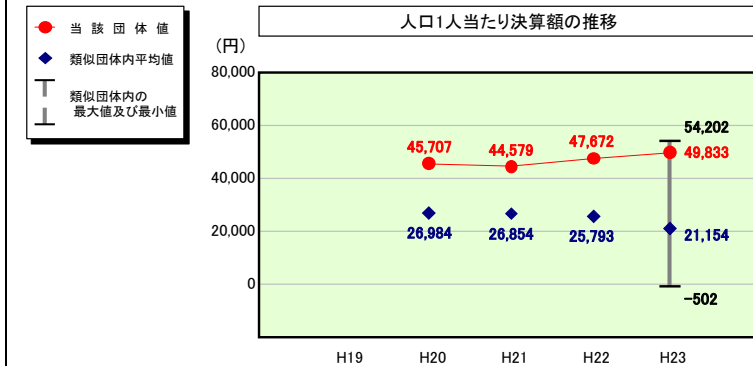
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	6,172,747	92,666	69,188	33.9
賃金 (物件費)	373,384	5,605	4,522	23.9
一部事務組合負担金 (補助費等)	72,975	1,096	5,753	▲ 80.9
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	-	-	926	-
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	3	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	126,078	1,893	3,026	▲ 37.4
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	69,548	1,044	1,451	▲ 28.0
▲退職金	▲ 664,758	▲ 9,979	▲ 8,301	20.2
合計	6,149,974	92,324	76,569	20.6

参考

	当該団体	類似団体平均	対比 (差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	11.06	7.37	3.69
ラスパイレス指数	100.5	106.0	▲ 5.5

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

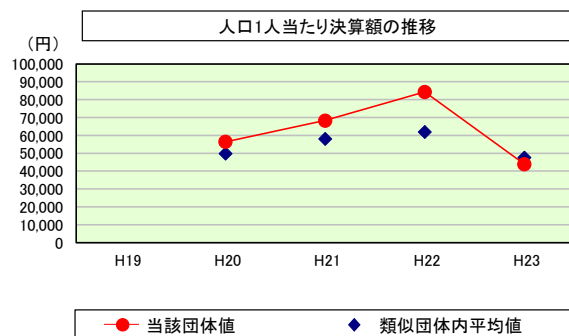


公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	4,555,703	68,391	44,862	52.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	16	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	44	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,135,070	32,052	12,261	161.4
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	18,351	275	2,838	▲ 90.3
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	302,927	4,548	1,470	209.4
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	362	5	15	▲ 66.7
▲特定財源の額	▲ 102,133	▲ 1,533	▲ 5,472	▲ 72.0
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 3,590,734	▲ 53,904	▲ 34,880	54.5
合計	3,319,546	49,833	21,154	135.6

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

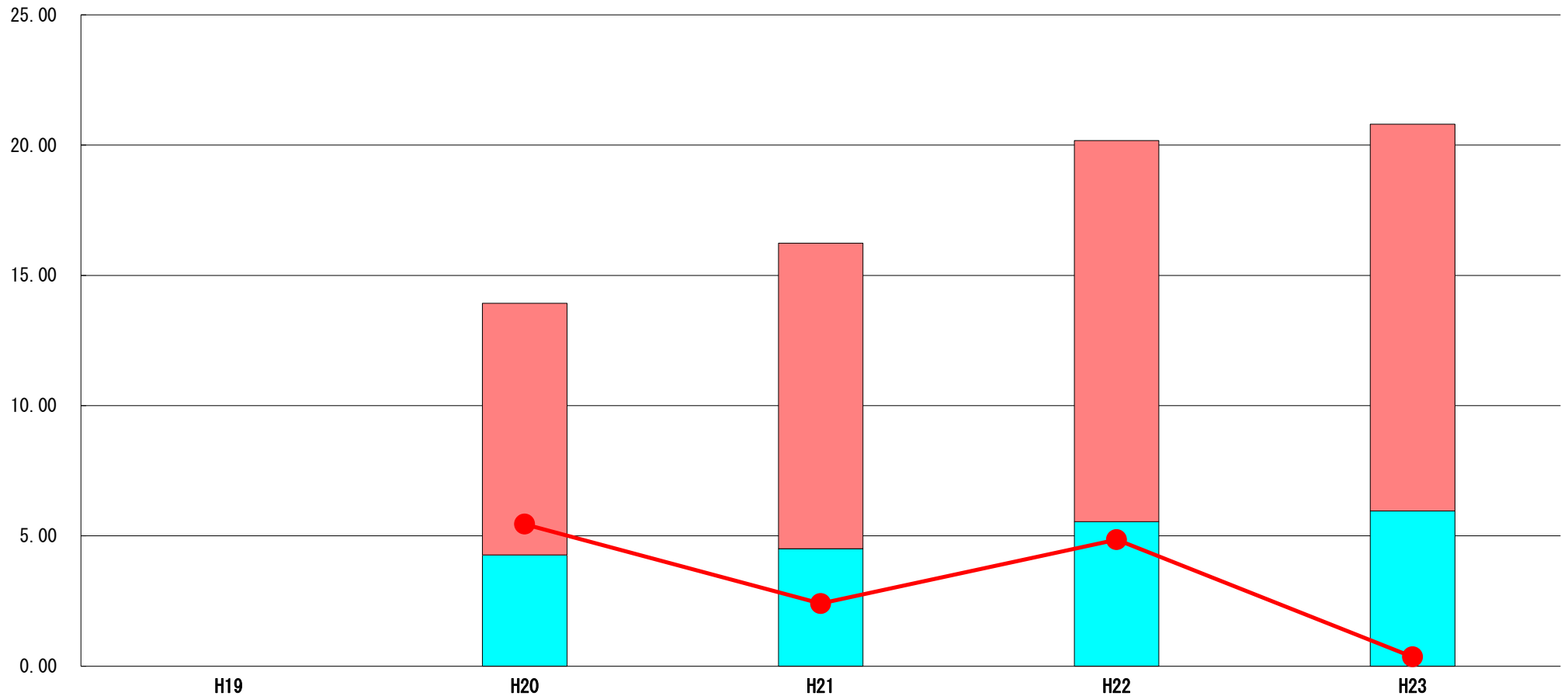
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H19	-	-	-	-	-	-
H20	うち単独分	3,899,050	56.437	49,774	-	-
H21	うち単独分	2,966,684	42.941	26,739	-	-
H21	うち単独分	4,666,746	68.302	58,009	16.5	4.5
H21	うち単独分	3,285,913	48.092	32,190	20.4	▲ 8.4
H22	うち単独分	5,690,357	84.374	61,882	6.7	16.8
H22	うち単独分	3,268,552	48.465	32,175	0.0	0.8
H23	うち単独分	2,923,573	43.889	47,569	▲ 23.1	▲ 24.9
H23	うち単独分	1,702,656	25.560	26,255	▲ 18.4	▲ 28.9
過去5年間平均	うち単独分	4,294,932	63.251	54,309	0.0	▲ 1.2
過去5年間平均	うち単独分	2,805,951	41.265	29,340	0.7	▲ 12.2

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成23年度

新潟県村上市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H19	H20	H21	H22	H23
 財政調整基金残高		-	9.66	11.73	14.62	14.84
 実質収支額		-	4.27	4.51	5.55	5.96
 実質単年度収支		-	5.45	2.40	4.85	0.35

分析欄

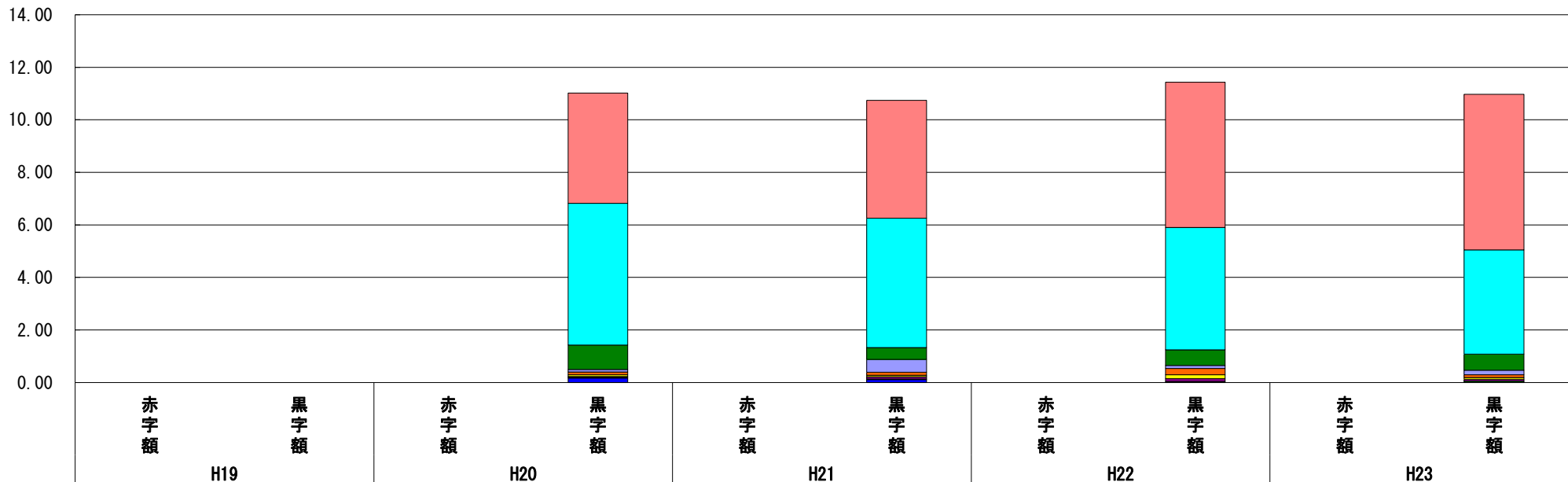
財政調整基金残高については、前年度と比べて0.22ポイント上昇しており、要因としては財政調整基金の取り崩しを行わなかったためである。
 実質収支額については、前年度と比べて0.41ポイント上昇している。これは、地方交付税が前年度よりも増加したことが要因であり、今後は市税等の自主財源の確保に努める。
 実質単年度収支については、前年度と比べて4.5ポイント低下しており、要因としては臨時財政対策債の一部を借り入れしなかったためである。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成23年度

新潟県村上市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H19	H20	H21	H22	H23
一般会計		-	4.20	4.48	5.53	5.92
上水道事業会計		-	5.40	4.93	4.66	3.97
国民健康保険特別会計		-	0.93	0.45	0.59	0.61
介護保険特別会計		-	0.09	0.49	0.12	0.18
下水道事業特別会計		-	0.11	0.12	0.24	0.10
集落排水事業特別会計		-	0.06	0.05	0.14	0.07
簡易水道事業特別会計		-	0.03	0.09	0.12	0.07
情報通信事業特別会計		-	0.03	0.02	0.01	0.03
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	0.17	0.11	0.02	0.02

分析欄

すべての会計で赤字額は出ていない。今後も、全会計の実質収支の黒字維持に努めることとする。

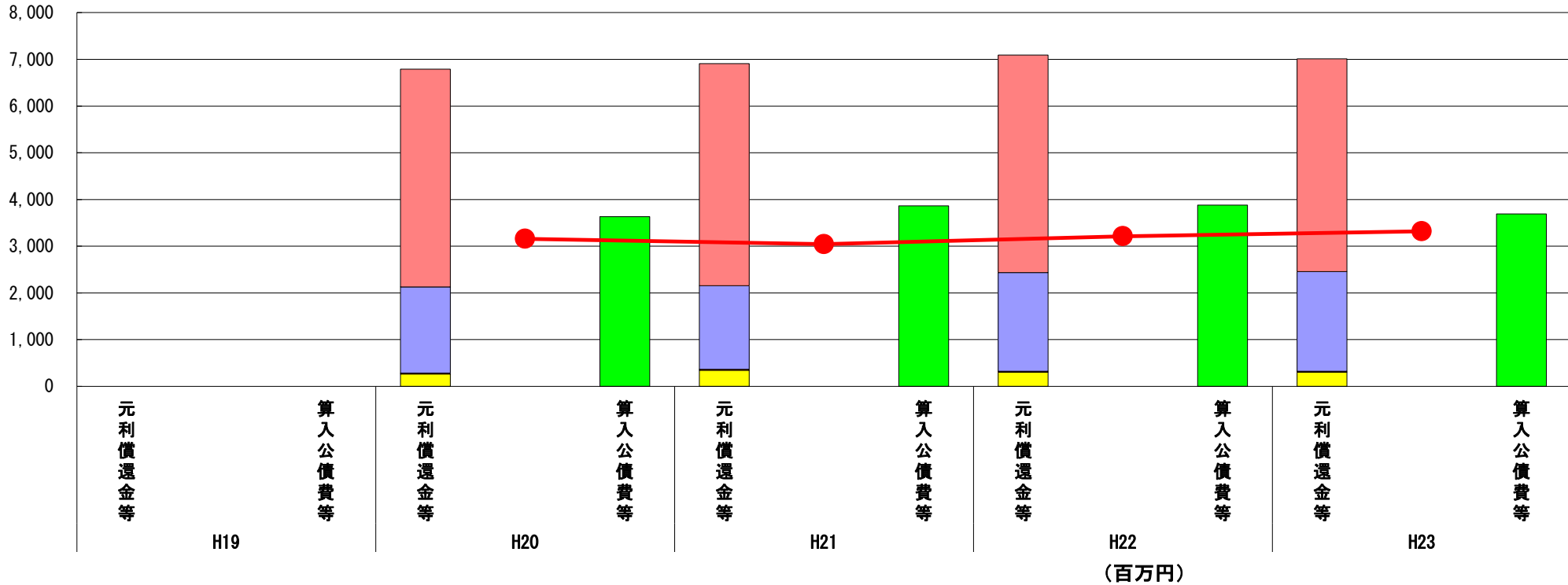
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

新潟県村上市

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等 (A)	元利償還金	-	4,659	4,752	4,658	4,556	
	減債基金積立不足算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	1,845	1,790	2,114	2,135	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	19	20	20	18	
	債務負担行為に基づく支出額	-	265	346	302	303	
	一時借入金の利子	-	0	0	0	0	
算入公債費等 (B)	算入公債費等	-	3,630	3,863	3,881	3,693	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	3,158	3,045	3,213	3,319	

分析欄

【元利償還金等 (A)】

一般会計及び下水道会計の元利償還金が比率分子の大部分を占めている。一般会計については合併前に実施した大規模事業債の償還終了及び地方債発行の抑制のため、今後は遞減する見込みであるが、下水道会計は下水道面整備完成を目標に事業を実施し、起債を増発していることから増加傾向にある。後年度に負担を繰延べすることができる資本費平準化債を活用するとともに、下水道接続率の向上を図り自主財源確保に努め、基準外繰出金を減少させなければならない。

【算入公債費等 (B)】

普通会計の起債発行額は減少傾向にあるが、下水道債の元金償還開始に伴い、今後も同額程度で推移する見込みである。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

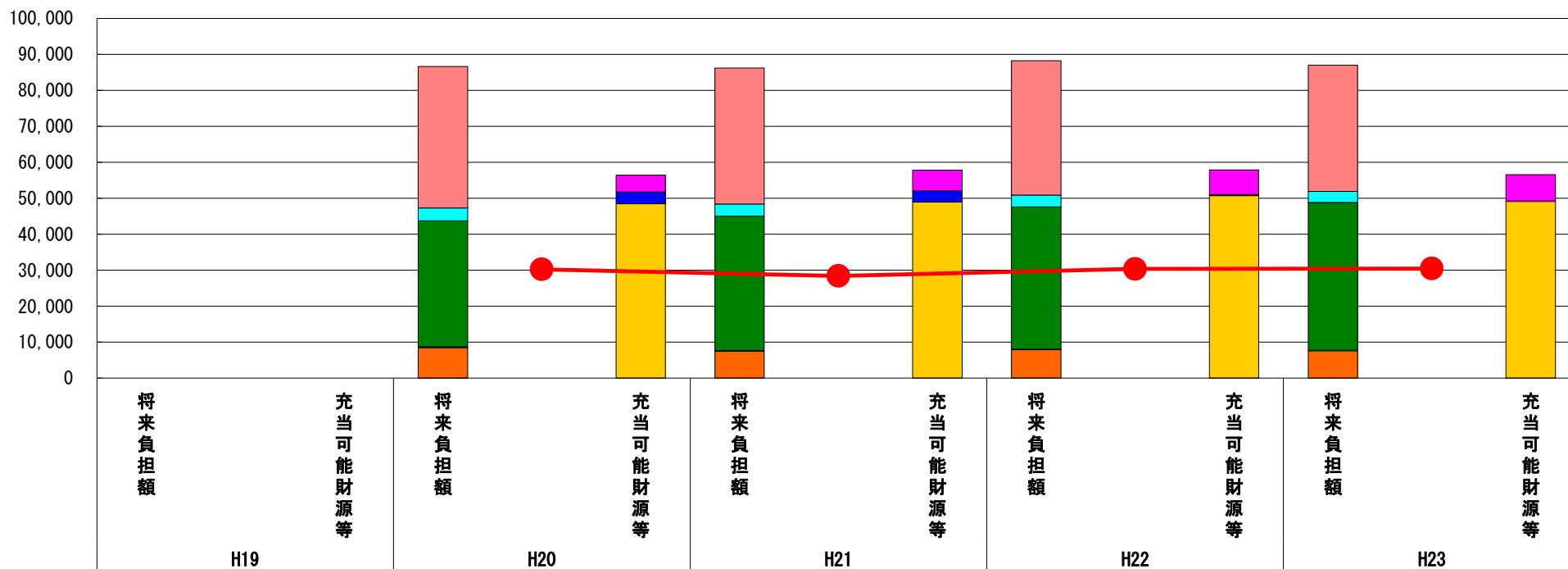
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

新潟県村上市

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高	-	39,362	37,811	37,421	35,145	
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	3,581	3,320	3,283	3,037	
	公営企業債等繰入見込額	-	34,999	37,347	39,519	41,094	
	組合等負担等見込額	-	259	220	147	148	
	退職手当負担見込額	-	8,462	7,487	7,893	7,586	
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	0	-	-	-	
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-	
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	-	4,708	5,766	6,889	7,264	
	充当可能特定歳入	-	3,225	3,047	275	142	
	基準財政需要額算入見込額	-	48,495	48,972	50,747	49,128	
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	30,234	28,401	30,353	30,476	

分析欄

【将来負担額 (A)】

比率分子で大部分を占めているのは普通会計の地方債残高、公営企業債等繰入見込額、退職手当負担見込額である。その中で公営企業債等繰入見込額に関しては、下水道面整備完成を目標に事業を実施し、起債を増発していることから、平成20年度からの3年間で60億円以上増加している。事業完了まで増加が予想されるため、下水道会計での自主財源確保に努め下水道会計の経営健全化を推進していかなければならない。

【充当可能財源 (B)】

都市計画税廃止に伴い「充当可能特定歳入」は平成22年度以降は減少しているが、大規模投資事業に備えた施設建設基金等の積立により「充当可能基金」は増加している。合併算定替え終了に備え今後も基金を積み増し予定であるため増加する見込みである。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。